

令和5年
12月号

うつくし ネットワーク 2023

いよいよ師走。「師も走る」の「師」とは、「お坊さん」のことを指しているということ、だいぶ以前に聞いたことをふと思い出しました。仏閣の多い富士宮。12月の雰囲気、なんとなく「なるほど」と納得します。何かと慌ただしい時期ではありますが、気持ちにゆとりをもって、ご利用者の皆様に喜んでいただけるサービスの提供に心を砕いてまいります。

高齢者デイサービス

ある日の1階職員さん (現場をスムーズに動かすためのお仕事風景)

1年の感謝を込めて 感謝祭

12月18日(月)～
12月23日(土)
1年間、笑顔と元気を有難うございます。毎年恒例の感謝祭を開催いたします。ご利用者さまだけの開催となりますが、楽しい時間をお過ごしください。

入浴が終わり、脱衣所の床を消毒しながらお掃除する上原さん。

落合さん、皆様の連絡帳の確認をされています。

連絡帳に一日のご様子を記入する栗城さん。

『年末年始のお休みについて』

本年度の年末年始につきましては、下記の通りの休業とさせていただきます。ご利用者・ご家族の皆様方にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

12/29(金)～1/3(水)

放課後等デイサービス

1月の予定 (予定は変更になる可能性があります)

日	月	火	水	木	金	土	
						6	
7		※1 コミュニケーション講座 (1/15～1/20)					13
		※2 清掃週間 (1/22～1/27)					
14	15	16	17	18	19	20	
	※1 コミュニケーション講座						
21	22	23	24	25	26	27	
	※2 清掃週間						
28	29	30	31				

お母さんの心と体の負担が大きくなる年末年始、できることなら子どもを叱りたくない…

こんな言い換え、いかがでしょうか？

★自己肯定感を高める言い換え

「ちょっと待って！」 → 「この片付けが全部終わったらね」
「今忙しいから後でね！」 → 「あの時計の針が7になったらね」

なるべく具体的なメッセージを示すと子どもの理解度が上がります。

★短所と長所のとらえ方

(短所) しつこい → (長所) あきらめない心を持っている

自分自身に関わることであればよいのですが、「他者に向けられたしつこさ」の場合は止める必要があります。その時は「嫌がっているからやめなさい」と命令の声掛けが必要になります。命令形は緊急事態で発する言葉。めったに使わないからこそ、使ったときに効力を発揮します。

11/29 京都芸術大学プロダクトデザイン学科の生徒さんによるワークショップのひとコマ。

『今の自分の気持ちを絵や文字で表現し共有する』をテーマにして、発達障害の子ども達に向けて、ご自分で制作した療育道具を持って来てくれました。恥ずかしがって陰から見ている子、すぐチャレンジする子、一人ひとり反応は違いますが、職員も一緒に楽しく参加させていただきました。若い世代が一瞬懸命頑張る姿に刺激を貰いました。



11月をふり返って

制作の様子

高齢者デイサービス

午後のヨガタイム
入浴と昼食後には講師によるヨガ教室。

入浴後のリフレク/ロジ
有資格者による足裏マッサージ。

夕食
多機能型就労支援事業所ARATAのお弁当。

みんなおめでとう!

HAPPY BIRTHDAY

放課後等デイサービス

10月31日生まれのお友達

11月10日生まれのお友達

11月12日生まれのお友達

10月はお兄さん、11月は弟さん。揃っての「ツーショット」掲載です。

11月も頑張ったね

載せきれない写真はホームページへGO★

GO! GO!

今年も残り僅かになりました。皆様はどのような一年だったでしょうか。私は、家庭においては、情緒不安定な二人の我が子への対応に心を砕いた一年でした。なるべく怒らずに、子供たちの気持ちを汲むために試行錯誤の日々でした。例えば、仕事上で学んだ「ペアレントトレーニング」という考え方にに基づけば、「出来ないこと」、「間違った解釈」は、「正しい知識」が身に付けば改善すると説きます。でも実際はそんなに簡単ではありません。当人が納得しなければ何も変わりません。ネガティブな思考に陥ってしまっている本人への「説得」は殆ど意味のない行動になってしまいます。「自分のせいではない」、「頑張っても上手くいかない」という思考に陥ると、「頑張れ」と言われても素直に受け止めることが出来なくなる。ではどうやって導いてあげれば良いのか？まずは「どうせ、上手くいくはずがない」という気持ちを理解してあげること。この子たちの発する「悲観的な物言いは、今まで上手くいかなかった心を守るための防衛行動。おどおどしている時には「大丈夫だよ」と寄り添ってあげることが必要。…なんて、あれこれと頭を巡らせ、心を寄せようと試みた日々でした。『子ども自身を変えることはできないけれど、親が変われば子どもも変わる』。これは、苦しい時に何度も心の中で繰り返し唱える「私の恩師」の言葉です。長い人生、失敗の連続でも、明るく自虐ネタにして、ポジティブ発想に切り替えて心も軽くしていけると良いですね。

今年最後の広報誌。思いのまま綴った編集後記に一年間お付き合いただき大変有難うございました。明年もどうぞ宜しくお願い致します。良い年の瀬をお過ごしください。 児童発達支援管理責任者 長谷川育美

編集後記